【連載】

大谷康子の対談シリーズ

音楽交差点 ヴァイオリンの小径で ⑱

大谷康子×樋口達哉（テノール）

BSジャパンで毎週土曜日午前8時からオンエアされている音楽番組『おんがく交差点』と連動した本連載。今回のゲストは4月14日に放送されたテノールの樋口達哉さん。樋口さんはイタリアの太陽を思い起こさせる美声の持ち主で、ファンは彼を「テノールの貴公子」と呼ぶ。歌手を始めたきっかけは、『スター誕生！』と『劇団四季』だという。そんな樋口さんが武蔵野音楽大学入学後、初めて見たオペラが《蝶々夫人》。それ以降、ピンカートンは樋口さんにとって思い入れが深く、思い出の多い役になったそうだ。オンエアは桜の季節。番組収録当日、その《蝶々夫人》と縁の深い桜の花が全面にデザインされた衣裳に身を包んで登場した樋口さん。ヴァイオリン界の歌姫・大谷康子さんと、まさに「華の競艶」となった。

（取材・構成＝伊藤裕太）

渋めの役よりも花形スターに憧れていたのかも？

大谷　番組へのご出演、ありがとうございました。まずは樋口さんの音楽との出会いからお尋ねしたいと思います。

樋口　4歳か5歳の頃にはエレクトーンを弾いていました。両親の話では、僕からやりたいと言い出したらしいです。

大谷　どんな曲を弾いていたのですか。

樋口　ビートルズの《レット・イット・ビー》が思い出に残っていますが、この曲は大好きで、高校生の時に受けたポップスのオーディションでも弾いています。

大谷　あら、ポップスですか。

樋口　小学校の時に、当時放送されていた『スター誕生！』を見て、歌手を目指すようになりました。

大谷　意外ですね。私などと全然違う道を歩んでこられたみたい。

樋口　そうですよね……。高校生になると音楽事務所や芸能事務所のオーディションを受けたりもしました。

大谷　そちらの道へ進まれても、きっと成功されていたでしょうね。

樋口　高校2年生の時に「劇団四季」の『アンデルセン』の舞台を観て、「これだ！」と思いました。主役は市村正親さん。心を揺さぶられました。

大谷　エレクトーンに、歌手に、ミュージカル。好奇心旺盛な若者でしたね。

樋口　その頃はお芝居に興味があって、ミュージカルは歌うことと演じることの融合だと感じました。この出会いがオペラに繋がります。

大谷　クラシック音楽との出会いはいつだったのですか。

樋口　高校時代にブラスバンド部に所属していて、そこでチャイコフスキー《イタリア奇想曲》とかムソルグスキー《はげ山の一夜》などに出会いました。

大谷　歌の勉強はいつから始められたのですか。

樋口　本格的に声楽を始めたのは高校2年生の終わりです。「音大を目指したい」と先生に相談すると、「声を創るには30歳代半ばまで長い時間がかかるが、それでもやる気か」と問われました。

大谷　歌手は身体そのものが楽器ですから、年齢とともに変わりますよね。

樋口　当時は意味がわからなかったのですが、最近、自分の声のコントロールが

コラボ演奏はカンツォーネの代名詞、《サンタ・ルチア》。イタリアの太陽のように明るいお二人の美音に酔う！

■Information

新国立劇場 平成30年度 高校生のためのオペラ鑑賞教室／プッチーニ《トスカ》（カヴァラドッシ役）
〈日時・会場〉7月9日、11日、13日、各日13時・新国立劇場オペラパレス
〈問合せ〉新国立劇場ボックスオフィス03・5352・9999

二期会／プッチーニ「三部作」～《外套》（ルイージ役）
〈日時・会場〉9月6日18時30分、9月8日14時・新国立劇場オペラパレス
〈問合せ〉二期会チケットセンター03・3796・1831

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団／第318回定期演奏会
〈日時・会場〉9月15日14時・東京オペラシティ コンサートホール〈共演〉高関健、他〈指揮〉〈曲目〉ラヴェル『歌劇〈スペインの時〉』〈ゴンサルヴェ役・演奏会形式〉、他〈問合せ〉東京シティ・フィルチケットサービス03・5624・4002

できるようになり、精神的にも少し余裕ができました。

大谷　樋口さんは大学入学の時はバリトンで、その後テノールに転向されたそうですが、そういうことはよくあることなのでしょうか。性格も役柄も違うように思いますが……。

樋口　体の成長と共に声も変化していく、ということはありますね。僕とは逆に、テノールからバリトンへの転向、ということもありますよ。

大谷　弦楽器では、ヴァイオリンからヴィオラへ、ということはありますね。

樋口　もしかしたら、性格的にもテノールの方が自分には合っているのかもしれません。バリトンの敵役とか父親役のような渋めの役よりも、王子様役や青年役のような花形スターに憧れていたのかも（笑）。

大谷　そして、武蔵野音楽大学・大学院を卒業されて、ミラノに留学されたのですよね。

樋口　はい。エンリコ・カルーソー国際声楽コンクールの最高賞など、いくつかのコンクールで賞をいただいて、オペラやオーケストラとの共演でお仕事が増えていきました。

大谷　留学時代、費用的にも苦労されたようですね。

樋口　だんだんお金も乏しくなり、アルバイトもしました。

大谷　でも、初志貫徹を自問自答していたら、運が舞い込んだのですね。

樋口　憧れの劇場、ミラノ・スカラ座のオーディションの話が舞い込んできたのです。先生から突然電話があって、「明日スカラ座のオーディションがあるけれど、受けにいけるか？」と。もちろん、二つ返事でした。その結果、なんと合格！

大谷　思いが強ければ、願いは叶うのですね。

樋口　確かにそう思います。もちろん、そのための努力や研究はかなり必要ですけどね。

大谷　樋口さんはとても華がある歌手だと思います。私の周りにもファンがいて、樋口さんのコンサートの追っかけをやっています。

樋口　ありがとうございます。大谷さんもステージに登場するだけで、その場がパッと明るくなりますね。

大谷　樋口さんには女性ファンがたくさんいらして、虜になっている方も多いと伺っています。

樋口　嬉しいことですね。今後はより多くの方々に僕の活動を知っていただき、皆さんにオペラを好きになってもらいたいです。

人気テノールの樋口達哉（右）、ピアニストの佐藤卓史（左）と

樋口達哉 Tatsuya Higuchi
武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。イタリアを中心に各地で出演を重ね、国内でも、新国立劇場・日生劇場・びわ湖ホール・二期会オペラ等、話題の公演で多数主演。最新CDは『あこがれ』。日本を代表するテノールのひとりとして活躍を続けている。二期会会員。

大谷康子 Yasuko Ohtani
2015年にデビュー40周年。1708年製ピエトロ・グァルネリを使用。華のあるステージ、深く追かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けている。東京藝術大学、同大学院博士課程修了。国内外のオーケストラとも共演を重ね、2015年のキエフ国立フィルとの日本ツアーも成功、2017年『キエフの春音楽祭』に招待されている。2015年、ジャズ界の巨匠、ピアニスト山下洋輔氏との共演で新境地を開き、『KAWASAKI JAZZ2016』のグランドフィナーレでの共演は大成功を収めた。CD『R.シュトラウス　ヴァイオリン・ソナタ/ベートーヴェン　ヴァイオリン・ソナタ第5番』（イタマール・ゴランp）［S SICC-1771］、新譜『大谷康子のお菓子な名曲サロン』［K KICC-1241］他、多数。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京藝術大学講師。（公財）練馬区文化振興協会理事長、（公財）日本交響楽振興財団理事。『おんがく交差点』（BSジャパン　毎週土曜日　8時～）では、春風亭小朝と司会及び演奏を務める。

■「おんがく交差点」今後の放送予定

5月19日〈ゲスト〉小野リサ（ボサノヴァ）
5月26日〈ゲスト〉MiMi（ハンマーダルシマー）
6月2日〈ゲスト〉伊藤君子（ジャズシンガー）
6月9日〈ゲスト〉ウィーン少年合唱団（合唱団）
6月16日〈ゲスト〉田中健（ケーナ）
6月23日　コラボ名曲集第9回
6月30日〈ゲスト〉曾根麻矢子（cemb）
※MCはいずれも大谷康子、春風亭小朝　出演者の都合で放送日が前後することがあります。

■大谷康子　今後のスケジュール

～夢のかけはし～ 蘭島閣ギャラリーコンサート
〈日時・会場〉6月16日18時・蘭島閣美術館1階ホール〈共演〉原武（お話）、小山さゆり（p）〈問合せ〉公益財団法人 蘭島文化振興財団 事務局0823・65・2029

スロヴァキア国立放送交響楽団来日公演
〈日時・会場〉6月24日15時・練馬文化センター 大ホール〈共演〉マリオ・コシック（指揮）〈曲目〉チャイコフスキー『ヴァイオリン協奏曲』、他〈問合せ〉楽天チケット／コンサートドアーズ03・6264・4194

プライムコンサートVol.1 大谷康子＆横山幸雄デュオ・リサイタル
〈日時・会場〉7月15日14時・大垣市スイトピアセンター文化ホール〈曲目〉フランク『ヴァイオリン・ソナタ』、サラサーテ《ツィゴイネルワイゼン》、他〈問合せ〉（公財）大垣市文化事業団事業課・事業係0584・82・2310